

調査支援業務委託 堰口遺跡整理作業成果報告

本年度、茅ヶ岳歴史文化研究所では、北杜市白州町堰口遺跡の土器整理作業を行っております。白州中学校の東側に位置する堰口遺跡は、平成24年度に発掘調査が行われました。調査では、縄文時代の住居跡約100軒と、平安時代の住居跡6軒が確認されました。その結果、大箱400箱分の土器と大箱100箱分の石器が出土しました。本年度は、それらのうち土器の整理作業を行ってきました。

整理作業によって、堰口遺跡は今から6,500年～5,500年ほど前の縄文時代前期に白州の地に生きた縄文人の生活痕跡であることがわかりました。また、今から5,000年ほど前の縄文時代中期の生活痕跡や平安時代の生活



前期の土器



前期の土器



中期の土器

痕跡も存在することが確認されました。

整理作業では、土器の文様やかたち、土器をつくった土の特徴などで土器を分類してい

きます。それらを細かく見ていくと、土器の特徴からおおよそ何年くらい前の土器か、どこの地方で作られた土器かがわかります。分類・整理作業を進めたところ、堰口遺跡は私達の住む北杜市の遺跡ですが、地元で作られた土器のほかに東海地方の土器、北関東や南関東の土器、関西地方の土器など実に様々な地域の土器が持ち込まれていることがわかってきました。今のように電車や車の

ない縄文時代ですが、地域を越えて活発に交流をしていた縄文人の姿が土器からもみてとれます。

整理作業ではもうひとつ大きな発見がありました。土器の表面を詳細にみていくと、黒くなった小さな穴があいていることがあります。その穴に樹脂を流し込み、型をとって専門家に見ていただいたところ、種子の痕跡であることがわかりました。具体的には、エゴマやツルマメ、ヤブツルアズキなどであることが判明しました。

種子が混入する土器については、近年の研究結果から縄文時代中期の土器にみられることがわかってきています。堰口遺跡では、種子の痕跡が中期に先行する縄文時代前期の土器にみられることから、大発見といえるのではないでしょ



印は種子痕跡がある個所を示す

うか。種子の痕跡からわかるのは、植物の種類だけではありません。一部の土器からは、今我々の食べる大豆となんら変わらないサイズの種子の痕跡がみられます。これらは初期的な栽培が行われていたことを意味するかもしれません。これら種子については、縄文人が意図的に入れたものであるかどうかは現時点ではわかりません。しかしながら、ひとつの土器にいくつもの種子の痕跡がみてとれることから考えると、縄文人が豊かな実りを祈って土器作りをしたということなのかもしれません。

今回の整理作業では、土器自体のことだけでなく、縄文人を取り巻く環境や縄文人の精神性にかかわるヒントが得られたのも大きな成果といえると思います。また今後は石器の整理作業に入っていきます。石器の面からも縄文人の生活に迫る重要な情報が得られていくことが期待されています。

(調査員 渋谷賢太郎)

＝堰口遺跡

＝土器検討会を開催しました＝

平成 27 年 3 月 7 日（土）・8 日（日）、東日本の縄文土器研究者の方々にお集まりいただき、土器の検討会を行いました。実に様々な地方の土器がみられることなどから、山梨県のみならず東日本の中においてもとても重要な遺跡であることが確認されました。



＝ノルダステーロの思い出大盛況＝



八代家住宅活用事業として、終戦直後に八代家で練習を重ねていた合唱団、ノルダステーロの団員さん達に

集まっていただいて、お客さんと一緒に歌を唄ったりする音楽イベントを平成 26 年 10 月 18 日（土）に開催しました。

途中、昔懐かしいおやつ「うすやき」を食べながら歓談し、当時の思い出話にみなさん耳を傾けていました。

ゲストとして明野町在住のフルーツ奏者「ちゃみたくジュエット」のお二人にフルーツ二重奏を演奏していただきました。



八代家のある南組の皆さんには、八代家でのイベントでは少なからずご迷惑をおかけしていることもあり、今回はご招待といたしました。

全体を通して、とても良い会になりました。

＝第5回伝統芸能研修会開催＝

＝今回の講師は住友元学芸員

去る平成 26 年 11 月 9 日（日）に、明野町民俗芸能保存会による、第 5 回伝統芸能研修会「明野のお神楽」を開催しました。

以前、当法人で神楽殿の茅の葺き替えのお手伝いをさせていただいた、三之蔵神社に神楽団が発足しました。今年は、毎年参加している 6 つの団体に、三之蔵神社神楽団が加わって、総勢 7 団体での開催になりました。

また、「神の舞」と「猿田彦命の舞」の二つの舞に関しては、2 団体に続けて舞ってもらうことで、観客の方たちにも神社ごとの舞の違いが、より分かり易かったのではないのでしょうか。

さらに、当法人の元学芸員、住友智子（旧姓川村）さんを講師にお招きして、前出の二つの舞の中に登場する神様とその神様にまつわる神話の紹介や伝統とは何かという内容で勉強会を開催しました。お越し下さった皆さん、ありがとうございました。



＝会員募集＝

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動してくださる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ！

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000 円

年会費 2,000 円

かやぶんかわら版 第78号

平成 27 年 3 月 20 日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

ウェブサイト <http://kayabun.web.fc2.com/>

e-mail kayabun@hotmail.co.jp